

第47号

発行所
茨城県筑西市下山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
TEL (0296) 24-6344(代)
FAX (0296) 25-4673
編集兼発行責任者
仙波聡美
印刷所
戸頃印刷所

紫西会報

創立百周年に向けて

紫西同窓会長 林

廣明

(第四十一回卒)



平成二十八年十二月二十日、母校下館第一高等学校において、筑西同窓会役員会が開催されました。

会議では、同窓会役員の一部改選、平成二十八年年度総会の期日、記念事業、講演会及び懇親会について審議をし、その他の議案として、創立百周年記念事業についての話し合いがなされました。早いもので、創立九十周年記念事業

が盛大に開催されてから、もう、三年の歳月が経過したのです。

同窓会は、これから平成三十五年の創立百周年記念の開催に向けて、準備を進めておりますが、同時に関係者の皆様の力強いご支援をお願いする次第です。

さて、話は変わりますが、先日、私はある老人の方から、小説で読んだことがあるよう

な話を、切々と打ち明けられました。

老人には二人の息子がいて、長男は学力優秀で一流大学を卒業後、一流会社に就職しましたが、次男は勉強が嫌い、高校を卒業すると地元の中小企業に就職しました。

長男は、会社で将来を期待される地位に就きました。そして、一流大学を卒業した都会育ちの女性と結婚したので

結婚式はとても華やかに開催され、会社関係、取引先関係、友人、知人等で式場が埋め尽くされ、新郎の父親である老人は「立派な息子さんだ。」「とても似合いのカップルだ。」「将来が楽しみだ。」等と多数の来賓客から祝福を受けて、老人は天にも昇る気持だったそうです。

しかし、結婚後、老人は長男夫婦と会う機会が少なくな

り、だんだんと長男夫婦と疎遠になったそうです。都会育ちの嫁は、田舎の老人宅へ遊びに行くのを嫌がり、また、老人が長男宅に遊びに行きたいと電話をする、長男は「忙しいから」と理由をつけては断るのです。

老人は、初孫を抱くこともできないと、嘆いておりました。

一方、父親と同居している次男は、出世はしませんでした。が、相変わらずコツコツと仕事をし、平凡な地元の女性と結婚しました。

老人は、これまで学業優秀な長男に目を奪われ、地味な次男には目もくれませんでした。しかし、現在の老人の生活環境は変わりました。

次男夫婦は、老いた父親の病院通いや、身の回りを田舎田舎しく世話してくれるのです。以前は、何の期待もしなかった次男の存在が、だんだんと老人にとって大きくなり、今ではなくてはならない存在になったのです。

老人は、「長男は立派な社会人になったのだから、父親としては、それで満足しなればならない。」「否、父親が

苦しい生活の中から学費等を捻出したおかげで、高校、大学を卒業し、現在の長男があるのだから、その父親への恩を忘れ、親を遠ざけるような長男夫婦は、到底許せない。」と、いつも自問自答しているそうです。

親子間の認識及び価値観の違いを理解し合うことは、大変難しいことであると痛感致しました。

さて、最後になりますが、大変御目出度いことがありましたので、皆様にご報告致します。それは、谷島英一同窓会副会長が、平成二十八年度秋の叙勲で瑞寶小綬章を授与されたのです。同窓会と致しましても、大変名誉なことであり、心よりお祝いを申し上げます。



ごあいさつ

校長 稲見 隆

(第五十二回卒)



紫西同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に対し、温かいご支援及びご協力を賜りまして、心より感謝を申し上げます。

私は今年度四月に本校へ赴任してまいりましたが、下館一高の校門をくぐるのはこれで実に三度目となりました。昭和四十八年には生徒として勉学に励み、平成八年には教員として憧れの教壇に立ち、充実した日々を送っていました。下館一高で過ごした記憶は、今でも鮮明に私の心の中

に残っています。そんな折、平成二十八年からは校長として再び母校に戻ってやることに決まり、言葉にできない感慨と強い縁を感じたものです。約二十年の月日を経て、今度は学校運営の重責を担い、学び舎の門をくぐった今、身の引き締まる思いと程よい緊張感を持ちながら一日一日を過ごしております。

と元氣な挨拶を響かせながら登校してきます。朝早くから登校した多くの生徒が早朝課外に真剣に取り組んでいるその姿は、私が下館一高の教壇に立っていた当時と何ら変わらぬものであり、懐かしさと感動、さらには清々しさまで覚えました。こうした不變的な下館一高の伝統や誇りを、次の世代にもしっかりと受け継ぎ、根付かせていく所存です。

さて、本校は、「文武両道の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性とたくましい心身を養うとともに、自主自立の精神を涵養し、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献するグローバル（グローバル＋ローカル）人材を育成する学校づくり」を目指し、教職員一丸となって取り組んでおります。こうした学校像のもとで、生徒たちは、「文武両道」「自主自立」の精神を胸に、学習に部活動に学校行事にそれぞれ高い目標を掲げ、その達成に向けて懸命に励んでおります。

昨年度からは、茨城県教育委員会の「一人一人が輝く活」とある学校づくり推進事業」の重点校に選ばれ、本校独自の「紫西グローバルチャレンジ」を展開してまいりました。国際社会への理解を深めるため、一年生は福島県白河市にあるブリティッシュヒルズに二日間宿泊し、英語に囲まれた日常を味わいました。さらに、平成二十四年度から実施しているカナダ語学研修には、今年度も一・二年生計十四名が参加しました。この研修では、ホームステイや語学学校、ブリティッシュコロンビア大学、雄大なカナディアンロッキーを見学するなど、貴重な体験を重ねることができました。帰国後は、各ホームルームにおいて体験談を発表する時間を設け、参加することができなかった生徒たちとともに、海外研修で得た感想や海外から見た日本像などを共有しました。

そして今年度は、二年生全員によるグアム島への海外修学旅行を新たな試みとして取り入れました。十月上旬という時期でしたが、幸いなことに滞在中は天候にも恵まれ、生徒たちは青い空と海の広がる南国において、たくさんのかけがえない思い出を作ることができたように思います。入国審査や税関検査、現地高校生との交流は、実際に海外へ足を運ばないと経験できません。現地の人々との会話やスーパーマーケットにおける買い物では、日頃の授業で培った英語力を遺憾なく発揮することができました。さらに、第二次世界大戦におけるアメリカと日本の生々しい戦争の記録を垣間見ることで、恒久的な平和への思いを強めました。こうした海外修学旅行を通して得られた多くの貴重な体験は、今後生徒たちの大きな礎となるはずですので、

面で使用されてきた長い歴史を持つ体育館ですが、耐震診断の結果、今年度をもって使用することができなくなりました。二つ目は、パン屋の山中艶子さんが今年で九十歳を迎え、今年度いっぱい閉業されるという点です。山中さんは、六十年の間、下館一高の生徒たちを見守ってくださいました。天気の良い日も悪い日も、休みの日さえ、ずっと私たちを支えてくださいました。生徒一人一人のことをはっきりと覚えてくれている山中さんは、下館一高の全てを知っている、私たちの母親とも言える存在でした。長い間大変お世話になり、本当にありがとうございました。感謝の念に堪えません。これからもどうかお元気で、下館一高のことを温かく見守ってください。

結びに、目標として掲げている学校像の実現を目指し、教職員が一丸となって、本校のさらなる飛躍に取り組んでまいります。同窓生の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

同窓会便り

筑波銀行館高鬼怒商会総会

平成二十八年九月二十四日に、筑波銀行館高鬼怒商会の総会が開催されました。



一学年 プリティッシュヒルズ語学研修



二学年 グアム修学旅行



新任の先生よりメッセージ

紫 下館一高に赴任して

宮田 俊晴
(第五十八回卒)

員が仕切っており、その点では、生徒が主体的に活躍する今の下館一高はその伝統を受け継いでいると感じます。現在の生徒は元気に挨拶ができる、素直な良い生徒がそろっています。

一方で、競争の激しい現代社会では「優等生」というだけでは通用しません。失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていく覇気のある社会人が求められています。下館一高にはそうしたチャレンジをする場がたくさん用意されています。学習に、部活動に、ボランティアに、生徒が活躍できるよう学校を支えることが、教頭の私の使命であると考えています。

三月までの二年間、中高交流で古河市立総和中学校に赴任していた私は、卒業以来三十四年ぶりの母校への転動に期待半分、不安半分で四月に門をくぐりました。校舎や校庭は、旧校舎がなくなり大きく変わったところもある一方で、旧体育館や校庭の木々など昔ながらの雰囲気を保っていることに安堵しました。

私が高校生だったころの下館一高は「自由な校風」という言葉通りの学校で、生徒は自由に高校生活を満喫していたように思います。七曜祭などの学校行事はすべて実行委

《ROUTINE》

谷田部 仁



16〜18歳の時と他の年代の人の違いは何だろう。この時期にしか得られないことは何だろう。当然、高校生の時期は知らないことが山ほどある。しかし、知らなかったことすべてが新鮮に見え、それを大いに楽しめる時期だと私は思う。毎日が新鮮さに満ちている。だから、知的好奇心を持って、すべての教科の学習や部活動などに積極的に取り組み、新しい自分に巡り会えるはずである。また、学校生活を通して、泣いたり、笑ったり、傷ついたり、失敗したことからすべてが始まる時期だ。そして失敗の連続から学び軌道修正できる時期だ。さらに多くの友達と接することによって相手の立場に立つてものを見ることができ、本当の優しさに気づく時期だ。

館一では、実績のある部活、

グアムなどへの海外修学旅行、カナダでの海外語学研修、様々な講演会、AC・SAC課外や学習合宿、館力祭や文化祭など皆の知的好奇心を満たしてくれる機会がたくさんある。ぜひ、これらの活動に積極的に参加して自分を磨いてほしい。さらに、優秀で面倒見のいい先生方にアドバイスを受けながらさらに成長してほしい。

ただし、キーワードは『ROUTINE』毎日決まった日課を作り規則正しく動くことが肝心だ。

館一で学んだことを人に伝え、友達から学び、さらに「知識」を「知恵」に変えられる人になって卒業してほしい。館一という滑走路から、それぞれの新しい世界へ思い切って羽ばたいてほしい。

下館一高に赴任して

古河 剛



今年度、下館一高に転動し

てきました古河剛（ふるかわ たけし）です。よろしくお願いたします。私はこれまで三つの高校に勤務してきました。下館一高は四校目です。これまでで最も進学実績のある伝統校ですので、日々、緊張感をもって過ごしています。ここでは私がこれまで見てきた高校生と館一生を比較して感じたことを書きたいと思っています。

館一生は、一言で言うと『原石』だと感じます。『原石』とはどんな意味かというと、「大きな成果をあげる力を秘めているがまだ発揮できていない」ということです。「力を秘めている」とは、潜在能力の高さも勿論ですが、一番可能性を感じるのには、指導されたことにきちんと取り組みもつとする皆さんの真面目さです。これは本当に素晴らしいです。これからも大切にしてください。

一方で、その力を「まだ発揮できていない」とも思いますが、なぜ発揮できないのか？私が見てきた高校生にくらべて皆さんには主体性が足りないと思います。指導を真面目にこなすのはいいですが、なぜ

これをやるのか、本当に正しいのか、自分で考えず行動しているように見えます。そのため、形としてはできていても、本来の目的を考えると無意味となっていることも多いように思います。

自分で考えないということ、自分の行動に責任を感じていないことでもあり、たいへん危険です。そして主体性は、社会では知識よりも重要視されます。ぜひ、主体性を持って行動し、皆さんの持っている力を発揮して欲しいです。館一生は、皆さんが思っている以上に大きな力を持っています。お世辞ではありません。できるだけ高い目標をもって、それを目指して頑張ってください。

下館一高に来て、そんなことを思いながら皆さんと過ごしています。そして、皆さんを見てみると「せっかくの力を発揮できていないのはもったいない」と感じ、ついつい厳しくなってしまう。



下館一高に赴任して 佐藤 俊宏



私が中学生時の第一志望校は下館一高でした。中学生時代に仲の良かった柔道部の友人達のほとんども館一志望だったので、私も一緒に行きかけたのですが、伯父が二人も教員として館一に在籍していたので抵抗があったこと、勉強不足を理由に回避してしまいました。

報 西 会 紫

教員となり、三つの高校で勤務して参りましたが、前任校で野球応援に行った際に、前の試合が館一の試合でした。反対側のスタンドから見ただ館一の応援の様子は、学年応援で人数は少ないはずなのに、一生懸命に全員が一丸となっていて応援していたので、強く印象に残りました。また、柔道の大会会場で、館一柔道部の生徒さんたちの、明るく真面目に取り組む様子を見るたびに、一緒に柔道をしてみたいと思っていたいました。

今回、ご縁があって下館第一高等学校に赴任させていただきました。特別活動部長として生徒会活動等に携わっており

ますが、周囲の方々にご迷惑をおかけすることも多く、大変恐縮しております。お蔭様で何とか館一での一年間を過ごすことができました。下館一高は私の父の母校でもあり、保護者の方の中にも私の知人もいらっしゃると思います。私にとって何かと縁の深い学校ですので、何ごとにも前向きに一生懸命取り組み生徒の皆さんとともに私自身も成長し、下館一高のために少しでも貢献できるように頑張る所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

下館一高に赴任して 中原 正人



教室から眺める筑波山にも慣れてきました。赴任当初は反対側から見る筑波山でしたが、今は「反対側」という感覚はなくなってきました。前

任校は土浦二高だったので、ちょうど筑波山の見える方向が逆となる格好です。

下館一高には前任校の時に八年間続けて訪れていました。前任校で硬式野球部の監督になった際、初めて練習試合をお願いして対戦させていただいたのが下館一高でした。甲子園出場経験のある県西の伝統校の硬式野球部からは伝統校特有の力強さとプライドを感じることができ、たいへん学ぶことが多く有意義な機会となりました。現在もその伝統の力を目の当たりにして、野球の指導からは離れていますが、勤務校ということもあり快進撃を期待して応援しています。下館一高が甲子園に出場したときの菊地節監督は土浦二高が硬式野球部を創設したときの初代監督で、土浦二高に在職中は当時の経験をふまえてたくさんのご指導をいただきました。私の勝手な解釈かもしれませんが何か縁のある学校だと考えています。

下館一高に赴任して、生徒のすばらしい人格に触れることに喜びを感じています。県西の伝統校として益々発展する

下館一高に赴任して 須藤 崇文



本年度より下館第一高等学校に勤務することになりました。下館一高は、須藤崇文と申します。昨年度まで8年間明野高等学校に勤務していました。

教科は保健体育で、陸上競技を専門としています。陸上競技の中でも跳躍種目の棒高跳びを最も専門としています。異動してきて生徒たちと接して、印象は素直で一生懸命取り組み姿勢がすばらしいと思います。自分の目指す進路を考え、それに向かって努力しようとする様子がよくわかります。

まだまだ不慣れなところもありますが、持てる力を発揮し、下館第一高等学校のために頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

信じることの大切さ 林 康次郎



「先生はなんで先生になったの？」学校の先生になれば生徒から受ける定番の質問である。そのたび、「高校の世界史が楽しかったから」とか「お世話になった先生がいたから」なんて言ったりする。しかし本当にそうなのだろうか。思えば学校の先生には怒られた思い出しかない。自転車で田んぼに突き落とされたり、遊んでいた消しゴムを外に投げられたり、宿題を出さなくて毎日のように怒られたりした。(原因はすべて自分なのだ)。当然勉強も出来なかったから勉強を楽しみと思ったことは無かった。中学校1年の終わりから塾に通いはじめた。みるみる学力は向上し、高校受験は第一志望の学校に合格した。そうした経験から高校に入っても1年の終わりから予備校に通った。このころから私の「学校の先生不信」が始

まっていた。「受験に使える授業をしてくれない」。だから学校の授業は適当に受け、予備校の授業を熱心に受けた。結果私は大学受験に大失敗した。自分の不勉強が最大の原因だが、今思えば志望校に合格した人はきまって、学校の授業をきちんと受け、先生の言葉を信じた人だった。きっと先生は多くの金言を投げかけてくれたのだろうが私がそれを受け取らなかったのだ。学校の魅力的な授業を受け、友達と談笑し、部活動にも打ち込み、自分の目標の進路を実現する。私ができなかったそんな高校生活をお手伝いするために、私は今ここにいます。のかもしれない。

下館一高に赴任して 比氣 育子



筑西市に住んでいることもあり、赴任する前から下館一高の評判は聞いていました。校内から見ても、地域に信頼され、愛されているなと感じます。

最初に驚いたのは、入学式の校旗入場です。これは今まで勤務した学校にはなかったもので、歴史と伝統、母校愛を強く感じました。

各行事も生徒たちで運営し、協力し合う姿はとても頼もしくつりました。

毎日遅くまで家庭学習し、課題や追試、模試などの勉強の合間を縫って、部活動などに取り組む姿はまさに文武両道ですね。

ただ、保健室で見る皆さんの中には、無理に無理を重ねて体や心に症状が出ている生徒もみかけます。

勉強も運動もその他の活動も、心身ともに健康であることが基本だと思います。自身自身で健康管理する力を身につけ、本来の力を十分に出来るよう体調を整えることに気を配れるよう、サポートしていけたらと思います。

母校が一つ増えた

坂入 瑞



五十数年ぶりの十一月の雪

当時を体験していたはずが、小学校低学年で記憶の片隅にも残ってはいなかった。地面が薄っすらと白くなり、ときに激しく降る雪は校庭の木々の紅葉を一層鮮やかにしてくれた。

三月、定年退職迎えた。四月、縁があつて伝統のある下館一高に常勤講師として勤務することになった。期間は一年間。何が出来るのだろうか。体力は持つか。精一杯頑張ろう。不安で一杯だった。余裕なく慌ただしく過ごしてきた日々だったが、生徒たちから返ってくる挨拶、学校行事での躍動、授業中の学習態度、真剣な眼差しに癒されながら、ここにきてやっと周りの景色が見え始めてきた。

二十数年間趣味としてクレー射撃やライフル射撃を続けてきた。下館一高を卒業してライフル射撃界で活躍している競技者、指導者、ライフル協会関係者と知り合い活躍も観てきた。不思議なものでそのOG、OBの出たライフル射撃部の顧問になった。熱心に練習をして大会に臨む生徒の手伝いをするのができ幸福を感じた。インターハ

イや国体関東ブロック大会にも参加することができ、選手たちと充実した時間過ごすこともできた。とても貴重な体験をさせてもらった。

私にとって母校が一つ増えた。これからも下館一高を応援し続けていきたい。1年間お世話になりました。感謝いたします。日日は好日。

下館一高に赴任して

大塚 拓也

(第八十二回卒)



母校に帰って来られたこと、非常に感慨深いものがあります。こちらには私の他にも多くのOBの先生方がいらっしやうって、歴史と伝統を感じました。

勤務が始まってすぐに離任式があり、久しぶりに校歌を歌いました。二番まで歌つことができ、一卒業生として覚えていたことに安堵し、同時に、その日は三番以降がカットされていて歌わずにすんだ

ことにも安堵しました。三番以降も流れたらきっとハミングで歌まわしていたでしょう。お恥すかし限りです。また、売店のおばちゃんに再会し、いきなり指をさされ「あんたここで野球やってたっぺ？」と言われ、ドキッしました。恐るべき記憶力だと思いがながら、嬉しい気持ちになりました。

私が生徒の時に合唱コンクールや芸術鑑賞会(劇団四季のライオンキング)に行ったり、卒業式で三年生だけで歌(キロロのベストフレンド)を歌ったり、色々なことをやり始めた学年だったと記憶しています。

これはただ思い出を語ったわけではなく、多くの経験が人を育ててくれることを教えていただいたと思っています。

そんな下館一高の卒業生であることは私の誇りです。今後社会に出る生徒の皆さん、学校にも小さな社会があります。どうか学業、部活、学校行事等あらゆることに一生懸命取り組み、豊かな人間性を養い、未来に羽ばたいてほしいです。そんな激動の高校三年間を送ることを私は応援し

ます。

下館一高に赴任して

増淵 絵理

(第八十七回卒)



十二月も半ばを過ぎ、寒さ

も厳しくなってきました。朝布団から起き上がるのが億劫なこの季節ですが、ふと、ある生徒の「最近頑張ってる生活にして、朝勉強するようになってるんです。あと三十分寝たい！」って思っちゃうんですけどね」とはにかむ顔を思い出して、もぞもぞと起きだします。

高校生として三年間、あれほどお世話になった先生方に、またお世話になるとは思ってもみませんでした。前任校の校長先生からいただいたお話に二つ返事でお受けし、周りの先生方からは「栄転だ」と送り出していただきました。しかし胸中では、まだまだ未熟な自分が役立てることが果たしてあるのだろうかと思

います。

今、布団から起きだすときに今日一日を思い浮かべて楽しみだと感じられるのは、生徒のみなさんの影響が大きくあると私は思っています。私自身の好きな言葉の一つに「精神的に向上心のないものはばかだ」というものがあります。夏目漱石の「こころ」のなかの一文です。指針として意識していることでもありますが、下館一高で過ごしている生徒に触発されることなくったように思います。それは勉強においても部活動においても、あるいはいつもの会話のなかにも、学校生活のたくさんの場面で生徒のみなさんのなかにある向上心が自然と感じられるためでしょう。

ここまでは下館一高の生徒のみなさんのよく学びよく生きようとする姿、それによって私自身の日々がいかに実りあるものとなっているかが少しでも伝わればと思いますが、今後ともみなさんの学校生活が充実したものとなるよう尽力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

下館一高に赴任して

谷島 重穂



三月に並木中等教育学校を最後に、新採以来三十七年間の教員生活を送ってきました。四月より下館一高に勤務できることを大変光栄に思っております。現在、週三日新採の指導教員としての立場で、一年生の現代社会を担当させていただきます。

文武両道を目標に、グローバルな視野を持ち、さらには地域社会の発展に貢献できる「グローバルな人材の育成」のためのプログラムは、これからの学校教育の方向性を示していると思います。これには各分野で活躍されている卒業生の皆さま、また、保護者の皆様の学校への理解があったからこそのことであると思います。

今年、ノートルダム清心学園理事長の渡辺和子氏がなくなりました。彼女は、百万部

を超えるベストセラー「置かれた場所で咲きなさい」の著者です。渡邊氏は九歳の時、目の前で当時教育総監であった父、錠太郎を二・二六事件の反乱兵士に殺されました。

そんな過酷な人生を経た渡邊氏はこんなことを言っています。『置かれた場所で咲く』

というのは、苦しみがあり、痛みがある。そこでなければ咲けない。そして咲けない日には下へ下へと根を下ろす。そういう苦しみを味わわないといけない。どんな環境のなかでもそれを受け入れ、感謝して生きる。

これから学校を巣立ち、社会に羽ばたいていく生徒の皆さんには、この言葉を生きるヒントにしてもらいたいと思います。

下館一高に赴任して

谷口 涼



初めまして。四月から、非常勤講師として赴任してきました谷口です。下館一高に非

常勤講師としての話が来たときは、「え!? 自分に勤まるのか……」と不安に思ったのと同時に、実家から近かった事もあり、学生の中から下館一高の評判は耳に入っていましたので、素晴らしい伝統ある学校に勤務できることにやりがいを感じました。下館一

高の生徒はとても実直で、清々しい子ばかりです。目線が合えば「おはようございます!」「こんにちは!」と元気に挨拶をしてくれるので、私の気持ちも明るくなり気持ちよく授業を行うことができます。

ところで、私の担当教科は「情報」です。皆さんはこの教科をどのように思いますか。私自身が学生の時は、ただパソコンの操作を覚えるだけの簡単な授業だと思っていました。しかし、それだけでは十分とは言えません。進化するネットワーク社会に対応するためには、基本的なパソコン操作に加え、自身で応用していくための知識を身に付け、自身に有益な情報の取捨選択を行えるようになることが重要になってきます。これらが

合えば、「おはようございます!」「こんにちは!」と元気に挨拶をしてくれるので、私の気持ちも明るくなり気持ちよく授業を行うことができます。

ところで、私の担当教科は「情報」です。皆さんはこの教科をどのように思いますか。私自身が学生の時は、ただパソコンの操作を覚えるだけの簡単な授業だと思っていました。しかし、それだけでは十分とは言えません。進化するネットワーク社会に対応するためには、基本的なパソコン操作に加え、自身で応用していくための知識を身に付け、自身に有益な情報の取捨選択を行えるようになることが重要になってきます。これらが

合えば、「おはようございます!」「こんにちは!」と元気に挨拶をしてくれるので、私の気持ちも明るくなり気持ちよく授業を行うことができます。

と私は考えています。下館一高の生徒達は将来、社会のトップに立って日本を引っ張っていく人材になるはずです。その時に、この教科で学んだことを思い返して自身の力として活躍できるよう、微力ながらお手伝いできればと思いますので、よろしくお願い致します。

下館一高に赴任して

須藤麻依子



本年度四月に本庁総務部の出先機関である筑西県税事務所より赴任して参りました須藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

県税事務所とは、県税についての、管理・課税・徴収の一連の業務を執り行っている機関となります。入庁後六年間、県税に携わり、初めての異動がこちらの下館一高となりました。

下館一高と聞いて、寡黙で大人しい生徒さんたちが多いのかなと思っておりましたが、

みなさん明るく、元気いっぱい、休みの時間等に聞こえてくる笑い声は、赴任当初、緊張していた私に笑顔や元気をくれました。

また、生徒の皆さんは廊下等ですれ違えば元気に挨拶をしてくれます。

行事等があれば一致団結し、懸命に汗を流して練習や準備等を行っているのが事務室からも見えました。

とても素敵な生徒さんばかりいる学校だなと、いつも思っています。

そんな中でも、一番印象に残っているのは、雪の降るある日の休み時間に聞こえてきた元気が笑い声でした。事務室から外を見ると、数人の生徒さんが雪で楽しそうに遊んでおり、そのはしゃいでいる姿にまた笑顔をもらいました。

そんな素敵な生徒の皆さんには、今も含め、これから大人になっていく中で、色々なことがありますが、「笑顔」を忘れないで欲しいです。

業務上、生徒さんたちと接する機会ほとんどありませんが、生徒の皆さんが充実した高校生活を送れるよう、微力ながらもお手伝いさせてい

ただければと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。



進路指導の現状

進路指導部長 福井 勲



【平成二十八年入試概況】

二十八年入試は新課程入試の全面実施となりました。

今回から新たに新課程に移行した英語・国語・地歴公民には、出題傾向に大きな変化は見られませんでした。今春の十八歳人口が昨年から一万人近く減少しているのに対し、

センター試験志願者は563,768人で、昨年に比べ101%と微増でした。私立大学のセンター試験利用が増加したり、現役生の大学志願者数が増加したことが原因と考えられます。科目別の平均点は、

国語や歴史科目で上昇し、物理や化学で下降しました。そのため合計の平均点は、文系

が高く理系で低くなる傾向が見られました。この影響もあってか、学部系統別志望動向では、国公立・私立共に「文高

理低」の傾向が昨年同様続きました。旧帝大などの難関大学に関しては、東京大学の推薦入試、京都大学の特色入試などが話題になりましたが、

難関大全体としては堅調な人気を維持しているようです。また、国立大学の学部新設や改組も目立ちましたが、その影響は大学により千差万別だったようです。こうした新しい分野の動向は読みにくく、注意が必要ですよ。

次に私立大学に注目してみると、受験料の割引制度や複数学科同時出願制度などにより、受験生が受験しやすくなっているため、全体の志願者数は増加しています。しかし、定員超過を抑制するために多くの大規模校で合格者を絞り込む動きが見られました。

【本校生（平成二十八年三月卒業生）の状況】

本校生のセンター試験の平均点は、国語132.6点、数ⅠA 55.1点、数ⅡB 43.7点、英語120.9点、世界史B 63.8点、日本史B 68.5点、

地理B 57.3点、物理48.8点、化学50.2点、生物75.1点でした。指定校推薦では、慶應義塾大学や明治大学など21名が合格しました。国公立大学については、

推薦入試では東京学芸大学や金沢大学、筑波大学、茨城大学、宇都宮大学など18名、一般入試では前期で62名、中期で6名、後期で11名、独立日程で4名、合計で101名が合格をしました。また、一橋大学や東京工業大学、お茶の水女子大学、東北大学、北海道大学、名古屋市立大薬学部などの難関大学にも合格者がぞめました。

合格者の傾向として、素直で謙虚であることが挙げられます。本校では個別面談に力を入れており、担任を中心として盛んに行われています。アドバイスを受けた際、一度は自分の中に取込んで精査し、自己分析をして自分なりに改善していける生徒が伸びたように思います。また「下館」高は課題が多くて大変だ」という声を耳にしますが、進

学校としてはごく一般的な量です。日々の課題を通して継続的に努力した生徒が伸びました。さらに部活動に誠実に

取り組んだ生徒も伸びたように感じます。

【今後の展望】

引き続き国立大学を中心に、学部・学科の新設・再編が行われます。主なものとしては、教育学部の総合科学課程の廃止・縮小、理工系学部の再編、文系学部募集人員の理工系学部へのシフト、国際系学部新設、留学制度の充実、地域活性人材育成に向けた学部新設などです。また、私立を中心とした定員増の動きも見られます。WUによる出願や外部英語試験の活用もさらに進むでしょう。

学習指導要領改訂などの「高等学校教育改革」、学部再編などの「大学教育改革」、大学入学者希望者学力評価テストにおける記述式の導入などの「高大接続改革」。これらが一体となって盛んに議論されています。大学入学者希望者学力評価テストを受験する予定の現在の中学二年生は、もうすぐ高校に入学してきます。今現在の在校生への指導を充実させることはもちろん、数年後を見据えた準備が必要とされています。

一学年主任 海老澤淳子

各学年の現状

一学年概況

入学の喜びもつかの間、毎日が慌ただしく過ぎていき、気がつくともう一年が過ぎようとしています。勉強や部活動を初めとして、やらなければならないことがたくさんあり、入学当初はなかなか体がついていかず辛い思いをしていたようです。最近では、高校生としての生活にも慣れてきて、それぞれの目標を勉強に部活にと目標に向かって満足できる日々を送っているようです。

さて、一年を振り返ってみると、学校全体で取り組んでいる『紫西グローバルチャレンジ』の行事を中心に、たくさんさんのチャレンジをしました。ブリティッシュヒルズの語学研修では、英会話に自信を持った生徒がいる一方で、多くの生徒は、その必要性を強く感じ、語学力を高めたいと意欲がわいてきたようです。希望者が参加する夏休みのカナダ語学研修には、十名が参加しました。参加したほとん

どの生徒が、英語でのコミュニケーション能力やリスニングの力の向上を実感したようです。そして、外国人とのコミュニケーションでは、日本についての知識が豊富なほど会話が弾むことを実感し、もっと勉強を頑張ろうと思ったようです。

十月の企業訪問では、毎日新聞社東京本社や東京メトロ綾瀬工場、日立製作所等に見学に行きました。多くは都内に立地する企業で、個人で行くことが困難な会社もあり、「仕事」「や」「働く」といった意識や、世界情勢への興味関心が高まった生徒もいたようです。

クラス中心に参加する行事は、館力祭、クラスマッチ、合唱祭がありました。中学までと違うのは、企画や運営を生徒が中心に行うことです。最初の館力祭では、初めてのことがばかりで戸惑う様子もみられました。しかし、自分たちで考えて、苦労して成し遂げた分、感動も大きいこと。たくさんさんの生徒がそれを実感できたようでした。合唱祭では、最初の曲や役割分担の話し合いから始まり、少ない時

間を有効に使って、協力し合い練習を重ねていました。日を追うごとに、団結力もその本気度も一段と増したように思います。

本校では大半の生徒が部活動に加入しますが、今年も多くの生徒が部活動を頑張っています。77%の生徒が加入しています。しかし、残念ながら上級生と比べると少し少ないようです。運動部はほとんど変わらないのですが、文化部の加入者が少ないという現状です。運動部との兼部が可能な部活動もたくさんあるので、積極的な活動を期待しているところです。初めての特色選抜で入学してきた部員を含む運動部は、即戦力となり活躍している選手をはじめとして、その意識の高さを感じます。これからの活躍を大いに期待しています。

二学年概况

二学年主任 深谷 祐
やはり今年度の目玉はグア

△修学旅行でした。館最初の海外修学旅行は無事成功裏に終わりました。今文集の編集が着々進んでいますので、出来上がりましたら、どうぞご覧下さい。旅行アンケートでは95%以上の生徒が「行って良かった。」と答えています。感想では、「学校で習った英語が通じて嬉しかった。」「コミュニケーションがうまくいかなかった。もっと英語を勉強したい。」といった前向きな内容のものが目立ちました。また、海外から再び振り返って「日本の安全さを改めて知った。」というものもありました。海外に出るのは、時間と経費・手間がかかりますが、得るものも大きいと思います。

今、二年生は「受験生になる。」としている最中です。受験受験といわれますが、受験勉強という勉強は特にありません。一・二年の復習にすぎません。受験生になると、予習と復習のバランスを取って勉強を続けることです。復習が過ぎれば、予習が疎かになります。復習だけの勉強では使い物になりません。強い意志をもって予習と復習と部

活動(あるいは家庭での生活)のバランスを取り続けることが、受験生になることそのものです。

一月からは、学年全体指導として、志望理由書の作成を行います。自分の何学部学科に行きたいのか、その学科の内容、自分のどこがその学科に向くのか等を二六〇〇字でまとめて書いています。文章を書くのが苦手な生徒も多いと思いますが、十二月の小論文講演会の主旨に沿って、自分の考えをまとめます。書くことで自分の考えや志望が明確になります。

まだまだ、先は長いのですが、どうぞ二学年をよろしくお願ひ申し上げます。

三学年概况

三学年主任 高野良則

この原稿を書いている今、センター試験を約一か月後に控えています。あつという間の大学受験です。もうすでに推薦試験や就職試験は始まっており、進路が決まった生徒も出てきています。

今年度は館力祭の年でした。最高学年として、生徒会、執行部、実行委員の中心で前

回に負けない盛り上がりを見せました。また各部活動も最後の大会を悔いなく終える活躍を見せてくれました。そしてこの学年にとっては初めての野球応援も、学年一丸となることができ、野球部も四回戦まで進む快進撃を見せてくれました。

ひとつひとつ、この学校での最後となる行事を終えて、大学入試これから勝負です。各先生方には毎日遅くまで指導していただき、また生徒自身も進路実現を目指し日々努力を重ねています。今は、この努力が実を結び、全員が笑顔で春を迎えてくれる事を願ってやみません。

進路状況

国立大 (十四名)

筑波大学 (一名)

宇都宮大学 (五名)

茨城大学 (二名)

群馬大学 (二名)

山形大学 (二名)

茨城県立医療大学 (二名)

私立大 (三十名)

東京家政大学 (六名)

明治学院大学 (四名)

日本大学 (三名)

中央大学 (三名)
成蹊大学 (以下、各一名)
津田塾大学
獨協大学

自治医科大学

明治大学

立教大学

文教大学

慶應義塾大学

昭和薬科大学

東京理科大学

北里大学

明治薬科大学

昭和女子大学

東京女子大学

短期大学 (二名)

山野美容芸術短期大学

専門学校 (二名)

県立つくば看護専門学校

ハリウッドビューティー専門学校

就職 (五名)

筑西市広域町村圏事務組合消防本部 (二名)

向島流通サービス株式会社

社

茨城県警察

自衛官候補生



主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
東北	1	1	1	0	2
山形	3	5	5	3	8
福島	5	8	8	3	9
茨城	16	24	23	26	24
筑波	5	5	8	5	7
宇都宮	12	8	10	19	16
群馬	1	8	5	2	3
埼玉	6	5	9	11	9
千葉	1	0	3	7	4
東京	0	0	0	0	0
一橋	1	0	0	0	0
東京工業	1	0	0	0	0
東京外語	0	0	1	0	0
横浜国立	0	1	1	3	0
その他	12	14	7	4	9
国立大計	64	79	81	83	91

(主な私立大学)

大学名	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
国際医療福祉	7	4	12	7	11
獨協	16	10	8	10	5
文教	14	11	21	9	18
青山学院	3	1	3	4	7
大妻女子	5	22	2	4	14
北里	2	3	4	2	1
慶應	5	1	1	2	1
国際基督教	0	0	1	0	0
駒沢	18	8	13	13	6
芝浦工業	10	3	9	15	15
上智	0	1	0	0	0
専修	11	6	13	12	12
中央	8	21	7	7	22
津田塾	1	5	1	2	2
東京女子	0	18	4	3	4
東京薬科	0	1	0	0	0
東京理科	6	4	5	6	9
東洋	48	17	30	33	29
日本	22	27	27	23	21
日本女子	0	10	2	0	5
法政	12	2	6	12	7
東京都立	2	4	5	8	3
明治	11	4	3	6	17
明治学院	10	11	11	10	19
立教	6	1	1	1	38
早稲田	3	5	0	2	1
その他	363	364	347	305	365
私立大計	583	564	536	496	632

(主な公立大学)

大学名	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
高崎経済	6	16	13	8	4
県立医療	3	2	0	2	5
首都大東京	1	0	0	1	1
横浜市立	1	2	0	1	0
その他	26	56	21	14	23
公立大計	37	76	34	26	33

進路決定先人数

年度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就職	未定・他	卒業者数
28	87	156	4	5	1	18	271
27	102	138	0	7	2	18	267
26	104	147	2	9	2	12	276
25	93	149	0	4	3	25	275
24	106	130	4	13	2	18	273
23	77	159	3	6	1	27	273

2017年度大学入試センター試験平均点

科目	英語	リスニング	国語	数学ⅠA	数学ⅡB	世界史B	日本史B	地理B	現代社会
本校平均	123.5	28.4	111.2	60.1	47.2	64.3	56.9	64.6	60.7
全国平均	125.5	28.4	103.5	62.7	55.1	67.2	60.1	63.8	60.0

科目	倫理政経	物理	化学	生物	生物基礎	地学基礎
本校平均	63.3	61.4	47.4	65.4	41.0	32.8
全国平均	66.6	63.3	53.1	69.6	39.9	33.7

※ 全国平均は
中間発表のものです。

カナダ語学研修

カナダ研修に参加して

鈴木 大仙

「これが海外の空気か」とカナダの冷たい空気が自分を包み、初めての海外への緊張感がだんだん高まっていきました。空港からグランビルアイランドへ向かうバスから見た景色は、スクリーンに映し出されている一つの映像のようで、海外にいる実感が湧いてきました。

紫西会報

これからお世話になるホストファミリーと会う時間になり、期待と不安で心が一杯になりました。車で家に向かう途中ホストマザーが家族のように話しかけてくれて、自然に心が和んでいきました。初めは自分から話しかけることができませんでしたが、ホストファミリーからたくさん質問をされる中で自分からも質問をしていくことができるようになりました。「コミュニケーションは質問をたくさんしていいところから始まっていく

ということを実感することができました。

二日目、ホストファミリーがキリスト教であったため、教会へ連れて行ってもらいました。人生初の教会で年配の方から小さな子どもまでが一緒になって祈りを捧げていて、信仰心の強さや宗教が日常に密着していることを強く感じました。また、英語に加えて中国語の訳がついているという移民の数が多いカナダならではの配慮がされていて、島国である日本ではなかなか気付けられないようなことに気づくことが出来、とても貴重な体験になりました。

右も左も分からないまま、語学学校へバスと電車を乗り継ぎ登校が始まり、本当に学校に慣れることができたのか心配になりましたが、ホストファミリーが地図を作ってくれたり、バス停の場所や電車の乗り方を親切に教えてくれたりしたので、安心して登校することができました。語学学校では、いろいろな国の人たちと同じクラスで、英語の「コミュニケーション」を取ることに難しきや、伝えることができたときの喜びを体験することが

できました。

午後のアクティビティーでは、バンクーバーの街の中を散策したり、美術館を見学したりしました。特に印象に残ったのは、ウィスラーの大自然です。澄んだ空気に心が洗われたようなすがすがしい気分になりました。

今回のカナダ語学研修を通じて私は、「コミュニケーションは言語だけでなく、表情やしぐさなどから相手の伝えたいことを理解することで成り立つことや、日本の生活では体験することの難しい多文化共存への配慮、そして先住民族への尊敬の気持ちを深く学ぶことができました。とても充実した十日間となりました。

カナダ研修に参加して

古口 志穂美

私は今年の夏休みに、下館一高の紫西グローバルチャレンジの一環として、カナダ語学研修に参加しました。私はもともと英語が好きで、中学生のときも語学研修に参加したほど外国に興味があったので、このような機会に恵まれとても嬉しく思いました。

カナダでのホームステイは

一つの家に二人でお世話になるという形だったので、そんなに緊張せず向こうでの生活を始められました。ホストファミリーの家はとても広く、温かて良い人ばかりでした。

向こうでは、ほぼ毎日語学学校に通い、レベル別の授業を受けました。英語での授業だったのですが、講師の先生の話はとても分かりやすく、アクティビティも多く取り入れられていたのでよく頭の中に入ってきました。同じ授業を受けていた他の国の生徒とも話ができて、その貴重な体験にとってもわくわくしました。

色々な所に行き、色々な人と出会い、そして色々な刺激を受けました。カナダならではの景色や生活習慣を知る、新鮮な出来事や話も沢山ありました。特に私はバスガイドの方に聞いた、カナダと日本の教育環境の違いに興味を惹かれました。カナダには「This is to You」という自分で考えて自分で責任を負うという考え方があつて、小さい頃から自己責任を負わせ、経験を積んで大人になる、という教育の仕方です。日本はまさにその逆で、小さい頃は

叱り、躾け、徐々に責任を覚えさせていきます。どちらがよいということではないですが、国によって教育環境が違うところにとっても驚きました。

このような話を含むカナダでの様々な活動を通して感じたことは、「異文化だ、国際化だ」と言っけれど、実際に体験してみないとその違いや良さは分からないということです。今回の研修を通し、俄然外国や英語についての興味が沸きました。向こうでの生活にも特に大きなトラブルはありませんでしたし、とても良い語学研修になったと思います。



部活動紹介

硬式野球部

私達硬式野球部は合計二十九人が部長の須藤先生、監督の片岡先生、顧問の林先生のご指導のもと、活動しています。皆さんから応戦される野球部に、そして、皆さんと感動を共有できる野球部になるために、勉強面や生活面などにも力を入れています。チームの目標は春夏県大会優勝です。興味のある方はぜひ、硬式野球部のグラウンドに足を運んでみてください。



軟式野球部

軟式野球部は、部員十六人、マネージャー二人、顧問市村先生、大塚先生のもとで県大会優勝、関東大会出場を目標に日々練習しています。今年の夏の県大会は準優勝で、目標である関東大会出場は果た

せませんでした。次の春の大会では優勝して関東大会に出場できるように一日一日の練習に取り組んでいます。

野球経験者はもちろん、部員には高校から野球を始めた人もいますので、野球に興味のある人はぜひ練習場に足を運んでください。



サッカー部

私達サッカー部は一年生十九名、二年生十七名、マネージャー四名、計四十名で、顧問の小島先生、渡辺先生のもと、県大会ベスト八以上を目指し、日々練習に取り組んでいます。インターハイの県大会では、今年の選手権の覇者である鹿島学園とも戦い、非常にいい経験ができました。このような強豪校とも対等に戦えるように、練習から高い意識をもって取り組んでいきたいと思っています。興味のある方はぜひグラウンドに来てく

ださ



弓道部

私達弓道部は、部員数二十九名、顧問の阿部友樹先生のご指導のもと日々活動しています。今年度は、県西地区個人選手権大会で男女ともに上位入賞、新人大会県西地区予選会では男子団体第三位など、各大会で上位入賞を果たしています。また、二年の渡邊和真が十二月に行われる全国選抜大会に出場することになりました。

初心者大歓迎です！月々土曜日、弓道場で練習しています。気軽に見学に来てくだ



ハンドボール部

僕たちハンドボール部は、顧問の大吉先生、大林先生、外部コーチの前鬼さんのご指導のもと、今年の目標である県大会ベスト八を目指し、日々の練習に取り組んでいます。全員が初心者チームですが、部員全員が練習を真面目に一生懸命行い、その結果、今年の新人戦で県大会出場を果たすことができました。何部に入ろうか迷っている人や、運動部に入りたいけれど運動は得意ではないという人はぜひ一度ハンドボールを体験してみてください。



男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、選手十六名、マネージャー三名で活動しています。練習は木曜定休で平日は午後七時まで、土日祝日は三時間練習し

ています。インターハイ予選

や関東新人予選では県大会に出場し、県大会で勝つことを目標に毎日の練習に励んでいます。また、部員の中には中学校での競技経験がない人もいますが、練習を積み重ね、試合にも出ています。興味がある方はぜひ見学に来てくだ



女子バスケットボール部

私達女子バスケット部は一年生四人、二年生八人、マネージャー二人、顧問マクアリスト未央先生のご指導のもと活動しています。今年の新人戦では地区優勝を果たし、県大会出場を決めることができました。部員数は少ないですが限られた時間の中でみんなが努力を怠らず、向上心を持って日々の練習に励んでいます。一人ひとりの個性も強く、毎日笑顔と笑い声が絶えない部活です。誰でも大歓迎なのでぜひ



見学に来てください。

卓球部

私達卓球部は、男子十三名、女子十名で活動しています。今年度のインターハイでは、男女とも団体戦で県ベスト四、個人戦では県ベスト十六に入り、県大会へと出場しました。活動場所は旧体育館が使えないため、給食室で月曜日を除いた週六日で活動しています。男女や先輩後輩の仲がとていい、雰囲気の良い部活です。中学校での経験者はもちろん、初心者も大歓迎です。ぜひ一度足を運んでください。



陸上部競技部

私たち陸上競技部は選手が男子十五名、女子八名、マネージャー五名の計二十八名で、顧問の鯨先生、鈴木先生、須藤先生のもと練習に励んでいます。新人戦では成績上位者が多く、県大会でも活躍し、関東大会に進出した者もいます。互いに切磋琢磨し、メリハリをつけて練習しています。経験者はもちろんのこと、初心者で興味のある方も大歓迎です。一緒に汗を流しましょう。多くの方の入部をお待ちしています。



男子ソフトテニス部

こんにちは。僕たち男子ソフトテニス部は、二年生七人、一年生七人の合計十四人です。校舎の東側、ハンドボールコート

の隣にあるテニスコートで、古河先生のご指導のもと練習に取り組んでいます。

最近の実績はインターハイ県西地区予選会で団体二連覇を果たしています。秋の新人戦では個人戦でベスト十六に一ペア入りました。団体戦の結果が振るわず悔しい思いをしましたが、次の大会に向けて頑張っています。興味のある人はぜひ見学に来てください。



女子ソフトテニス部

私たち女子ソフトテニス部は、顧問の寒河江先生のご指導のもと、二年生四人、一年生五人の計九名で活動しています。

今年度は、個人で県ベスト十六という記録を残しました。九人という少ない人数で夏の合宿や日々の厳しい練習やトレーニングを「切磋琢磨」を

モットーに頑張っています。勉強との両立は簡単ではありませんが、部活をすることで精神面が鍛えられ受験にも役立つと思います。これからも結果を残すために練習をがんばりますので応援よろしくお願いします。



登山部

私たち登山部は、顧問の福井先生のご指導の下で、二年生それぞれ四名の計八名で活動しています。主な活動内容は山に登ったり、キャンプをしたりすることです。今年度は、月に一回のペースで山に登りました。夏には、標高二八九九mのハケ岳に登頂し、二泊三日のキャンプもしました。部員は皆、高校生になつてから登山を始めた者ばかりです。登山やキャンプに興味があれば、軽い気持ちで参加してみてください。

ボクシング部

私達ボクシング部は顧問の山田先生と外部コーチの龍田さんのご指導のもと日々の練習に励んでいます。ボクシングといえば少し怖いイメージがあると思いますが、高校ボクシングはプロとは違い、防具を付けるのでそんなに痛くありません。男子だけではなく、女子でもできるスポーツなのでぜひ一度旧給食室まで見学に来てみてください。マネージャーも募集しています。たくさんの方の入部をお待ちしています。

私達女子ボレーボール部は、部員八名、マネージャー二名の計十名で活動しています。県大会ベスト四で関東大会出場を目標に日々努力しています。昨年から同じメンバーで活動していて、上下関係が厳



男子バレーボール部

私たち男子バレーボール部は部員八名、マネージャー二名の計十名で活動しています。県大会ベスト四で関東大会出場を目標に日々努力しています。昨年から同じメンバーで活動していて、上下関係が厳

しくなくて楽しい部活です。水曜以外は基本的に活動しています。全国大会経験者や地区選抜選手だった人もいて、さらに強くなりたいので、部員大募集中です！

女子バレーボール部

私達女子バレーボール部は、先生の教えである「レシーバーのミスはセッター、セッターのミスはスパイカー、スパイカーのミスはレシーバーがカバーする。」をモットーに、顧問の有年先生、副顧問の酒寄先生・海老澤先生のご指導のもと、二年生五人、一年生六人、内マネージャー一人で、日々練習に励んでいます。今年度は、新大会県西地区で五位に入賞し、県大会出場を果たしました。県大会ベスト八を目標に頑張りますので、応援よろしくをお願いします。



剣道部

「短い時間で結果を出す」

をモットーに、私たち剣道部は活動しています。顧問の青木先生のご指導のもと、今年度は女子が団体に二十数年ぶりに関東大会に出場し、インターハイ予選では男子がベスト十六、女子がベスト八という結果を出すことができました。来年は男女ともに関東大会出場という目標に向かって、男女七名ずつ計十四人の部員で日々稽古に励んでいます。剣道を頑張りたい、自分を更に高め成長したいという方、ぜひ格技場まで足を運んでください。



ライフル射撃部

私たちライフル射撃部は、一年生六人、二年生六人で、顧問の深谷先生・坂入純子先生・坂入瑞先生・オリンピックコーチを務めた外部コーチ多田さんのご指導のもと、月曜日以外の放課後六時まで活

報 告

動しています。現在の部員は全員が初心者でしたが、インターハイや国体に出場することができました。高校から始めても高いレベルでの競技を目指せますので、興味がある方はぜひ、弓道場隣の旧給食室に見学に来てください。



水 泳 部

僕たち水泳部は、部員三名で顧問柴山先生のもとで活動しています。普段の練習は、各自のスイミングスクールで行い、関東大会出場を目標に日々練習しています。中学校で水泳をやっていた方、水泳に興味のある方はぜひ入部していただき。

バドミントン部

私達バドミントン部は、男子十名、女子九名で、顧問の増淵先生、大林先生、高野先生、青木先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。地

区大会では毎年上位に入賞しています。中には初心者でも県大会に出場し活躍している選手もいます。少しでもバドミントンに興味のある方は是非見学に来てください。お待ちしております。



硬式テニス部

僕たち硬式テニス部は、男子十九人、女子十三人、顧問の先生とともに毎日楽しく活動しています。活動場所は、学校から少し離れた河川敷にあるテニスコートが県西運動公園です。毎週月曜日は休日です、それ以外は定期考査一週間前を除き、毎日活動しています。現在の部員は、ソフトテニス部出身が半分ほどで、残りの半分は初心者です。男女・経験未経験問わず部員を募集

しています。



空 手 道 部

私たち空手道部は、顧問の久保田先生、副顧問の増淵先生のご指導のもと二年生二名、一年生一名で週三日結城市の道場で練習しています。前回の県大会では、団体形四位で関東大会に出場することができずに悔しい思いをしました。次の県大会では優勝して関東大会・インターハイに出場し

たいです。練習時間は少ないですが、一回の練習に集中して質の良い練習をし、目標に向かっていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。

茶 道 部

茶道部は一年生七人、二年生四人の計十一人で毎週火曜日に活動しています。活動場所は特別棟一階の茶道室です。毎回外部から先生が来てくださって、茶道の基礎知識や礼儀を教えていただいています。また年に一回笠間で行われるお茶会に参加し、他校との交流も行っています。先生に丁寧に細かいところまで指導していただけるので誰でも気軽に活動することが出来ます。



書 道 部

書道部は、一年生三名二年生五名の計八名で活動しています。今年から学校での活動が始まり、個人の作品作りは

もちろんのこと、部員全員での連作にも挑戦しています。また昨年度に引き続き、茨城県美術展覧会にも出品し、三名が入選しました。その他にもふれあい書道展や全国硬筆作品展覧会など様々な作品展に出品し、入選しています。書道を習っていた方、字が上手く書けるようになった方、ぜひ図書室に見学に来てください。



生 物 部

私たち生物部は、石川先生と阿部先生のご指導のもと、部員五名で活動しています。主な活動として、自分たちが気になった科学についての実験・観察をし、科学論文コンクールで発表をします。第五回高校生科学研究発表会では「石焼き芋の甘さの原因が酢

素反応ではないことの検証」という研究で審査員奨励賞を受賞することができました。生物に限らず科学に興味がある方は、ぜひ気軽に生物室にいらしてください。お待ちしております。

美 術 部

私たち美術部は、一年生四人、二年生四人で、顧問の野村先生、関本先生のご指導のもと、画力向上に向け日々努力しています。主に個人で活動していて、内容は絵画やデザインなど様々です。また、学年の資料や行事のプログラム等の表紙を引き受けたり、文化祭では前項造形で主体となつて創作活動を行ったりと幅広く活動しています。少しでも興味があったらぜひ来てください！



吹奏楽部

私達は部員四十三人と、顧問小林先生、副顧問山田先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。平日は四時～十八時、休日は九時～十五時に音楽室に集まり、時期ごとのイベントに向けて練習しています。今年度は初めて茨城県吹奏楽コンクールA部門に出場し、部員一丸となって最高の夏を過ごすことができました。秋には各種演奏会や依頼演奏、アンサンブルコンテストなどを通し、一年間の成長した姿を毎年三月に定期演奏会でお客様に披露していきます。



放送部

紫西会報

二年生五名、一年生九名、計十四名の部員は、入部時は全員初心者でしたが、毎日練習を積むことで、今年度はア

ナウンス部門・創作ドラマ部門において全国大会に出場することができました。

放送部では「人に伝える」スキルを身につけることができます。テレビやラジオの向こう側で何が起きているか気になりませんか？ 声を出すこと、映像編集に興味がありましたらぜひ放送室に来て下さい。



音楽部

音楽部は、約二十五名の部員で活動しています。活動内容としては、部員数名でバンドを結成し、各バンドごとに決められた曜日に部室を使用するというシステムです。部室を使う曜日は部内で相談します。基本的には、朝と放課後の一日二回で、平日のみとなります。ライブなどに関しては、文化祭で行ったり、部で企画して、スタジオなどを借

りて行うことがメインとなっています。



ストリングオーケストラ部

私たちは顧問の青木久幸先生、外部顧問の先生方のご指導のもと活動しています。「つくばウェストシンフォニア青少年オーケストラ」という楽団とともに活動し、定期演奏会やプロの演奏家の方々と共演をしています。また、七曜祭では、みなさんに馴染みのある曲を演奏しています。経験者はもちろん、一年生は三人中二人が初心者なので初心者でも大歓迎です。たくさん入部をお待ちしています。



ボランティア同好会

私達ボランティア同好会は、顧問の田崎先生のご指導のもと、二年生七名、一年生一名で活動しています。主な活動内容は、プラントナーの花に水をやることや県生涯学習センターなどの外部の施設から依頼されたボランティアに参加することです。また、活動は月曜日の昼休みだけなので兼部も可能です。活動を通じて、人との繋がりが助け合うことの素晴らしさを学ぶことができると思います。皆さんの入部をお待ちしています。



写真部

写真部は、一年生六名、二年生二名、計八名で、顧問石川先生のもと活動しています。主に個人で撮影し、それぞれ

作品展に出演しています。

作品展に出演しています。館力祭・七曜祭・クラスマッチ等の学校行事の際には静止画・動画記録を行っています。毎年、茨城県高等学校総合文化祭写真展への出品や茨城県高等学校文化連盟写真部会が主催する生徒撮影研修会に参加しており、学校内外で幅広く活動しています。写真の知識がなくても大丈夫なので、入部お願いします。



文芸部

現在部員募集中です。



ダンス同好会

私達ダンス同好会は昨年創

立された最も新しい同好会です。会員は一年生だけでまだ人数も少ないですが、今年からは活動内容をより充実したものにするともに、さまざまな地域のイベントや学校行事に参加していきたいと考えています。新入生の皆さん、私達と一緒にダンスをしませんか。ダンスの経験、スポーツの得意不得意は問いません。少しでもダンスに興味を持っていたら、ぜひ見学・体験にお越しください。お待ちしております。

英語ディベート部

私達英語ディベート部は、英語科の先生とA・L・Tの先生のご指導のもと、二年生三名、一年生五名で活動しています。現在は来年のローズ杯という大会出場を目指して練習に励んでいます。活動は週一回、毎週火曜日だけなので兼部も可能です。私たちは、決められた議題に対して、賛成と反対に分かれて英語で討論を書き力と話す力を身に付けることができます。興味のある方はぜひ見学に来て下さい。

報 応 援 団

みなさん、こんにちは！
私たち応援団は、毎週水・木曜日の放課後に活動しています。主に壮行会で、生徒を代表して前に立ち声を張って選手にパワーを送っています。夏には高校野球、冬には筑西マラソン大会の応援をしています。男女関係なく楽しく活動しています。ですが、現在部員がとて少なく困っているため、新入生の皆さんが入団してくれるのを私たち応援団は心待ちにしています！



チャリーディング

みなさん、こんにちは！
チャリーディングです。私たちは一年生十八人、二年生五人で、毎週火曜日と金曜日に仲

良く楽しく活動しています！

チアは野球応援をはじめ、筑西マラソンでの応援、クラスマッチでダンスを披露したりします。ダンスをやりたいなという人やチアに興味がある人、ダンス未経験者でも大丈夫です！ 私達と一緒に踊りませんか？



生徒会本部役員



柔 道 部

部員募集中です。

平成二十八年年度 職員異動

一 退職者

校長 石川 弘

教諭(社会) 岡田 実

教諭(国語) 部 尚孝

教諭(英語) 野澤義男

教諭(養護) 蒔田啓子

講師(理科) 世木田和也

講師(国語) 小沼ちひろ

非常勤講師(英語) 高橋好文

非常勤講師(英語) 下条茂樹

二 転出者

教頭 生駒忠夫

教諭(国語) (下館工業校長へ) 川上博志

教諭(社会) (太田二高へ) 岩澤昌人

教諭(数学) (土浦二高へ) 菊地律省

教諭(理科) (古河三高へ) 的場浩子

教諭(体育) (下妻二高へ) 広瀬源子

主事 (古河中等へ) 外山千恵美

(結城農業改良普及センターへ)

三 転入者

校長 稲見 隆

教頭 (下妻一高より) 宮田俊晴

教諭(国語) (総和中より) 佐藤俊宏

教諭(英語) (八千代高校より) 中原正人

教諭(国語) (土浦一高より) 古河 剛

教諭(理科) (総和工業高校より) 谷田部仁

教諭(英語) (日立北高校より) 須藤崇文

教諭(体育) (明野高校より) 比翼育子

教諭(養護) (古河一高より) 林康次郎

教諭(社会) (新規採用) 須藤麻依子

主事 (筑西県税事務所より) 坂入 瑞

講師(理科) 大塚拓也

講師(英語) 増淵絵理

講師(社会) 増淵絵理

非常勤講師(情報) 谷口 涼

非常勤講師(社会) 谷島重穂

平成二十八年年度 同窓会幹事

一組	富田 史紘
二組	仁平 杏奈
三組	青山 莉奈
四組	安島 諒
五組	鈴木 悠太
六組	中野 理沙
七組	飯田 篤
	大崎 彩花
	荒山 真穂
	吉田 尚史
	瀧田 和輝
	宮田 絢可
	市村美友樹
	水越 亮汰

編集後記

第46号に続き編集を担当いたしました。短期間での依頼にもかかわらず、心のこもった原稿や写真、資料をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。

さて、紫西会報は毎年数千部を発行しており、大部数の会報をらせていただいている責任の重さを感じています。昨年は初めての編集に緊張して夏前に作業覚書と紫西会報専用の原稿用紙をエクセルで作り、原稿依頼をする秋には原稿用紙の存在を忘れるという失態を演じました。そういった今年も原稿用紙のデータは見つかりませんでした。

紫西会報では、下館一高を卒業された方の記事をお待ちしております。クラス会の開催報告など、お便り・FAX・電子メールでお寄せください。学校代表メールアドレス：
kono@shimodate-h.tok.ed.jp

編集委員
柴山佳美 大吉 悟
増淵絵里 仙波聡美

写真提供
鈴木写真館